

縦2段にしてスマホでも見やすくレイアウトしましたが、いかがですか？



パロマ運動スタジアムに集合してスタート。



コンクリート舗装の急登の坂で全員マスク装着。

【撮影30期 北川 健一・記31期 宮田 岩男】

5月14日に愛知県は新感染症コロナウイルス対象地域から外れたが、東京神奈川方面・北海道は緊急事態宣言中であり、まだ予断を許さない状態でした。「コロナ鬱」「コロナ禍」は長期間のステイホームとなり、高齢者にとっては気が滅入り、気分が優れず辛いものがあります。

パロマ運動スタジアム正面に9:30に集合、男性15・女性12合わせて27人の参加になりました。早速リーダーから参加者全員にエタノールによる手の消毒があり、手だけは無菌状態に変わりました。今回も正式な行事ではなく、自主参加によるプライベートな扱いである事を理解して全員がマスクを装着し、ソーシャルディスタンスを守りスタートしました。

青葉が濃くなった山崎川桜並木を上流に向かい鼎小橋の案内標識3番を右折、田辺公園を左折して、現在建設中の体育館を右に見て、田辺通りの交差点を渡り、山神社に向かいました。

今回、瑞穂一万歩コースを少しアレンジして山神社に寄りました。

山神社は名古屋では珍しいが、猿投山・三河地域には多くあり、林業や農業に従事する方に厚く信仰されています。山神社の本殿は鎮守の森に囲まれた荘厳な緑の深い奥にありました。

ウィキペディアによれば、山神社は創建が享保18年(1733年)でパワースポットがあり、知る人ぞ知る神社で、ご利益が半端じゃないとの事です。

地形的に中關(チウカ)と呼ばれる地勢をしており、慎み深い人にご利益があり、文筆の人にも良いそうです。小生は空気感と爽やかな風を感じて心が洗われ、さもありませんと納得しました。

また、山神社の拝殿横の軒の下にひっそりと密柑山三等三角点海拔33.9mがあります。

戦前の密柑山付近は蜜柑畑の里山でしたが、今では環境に恵まれ、八事風致地区に指定されて緑豊かな住宅地です。

コースは車があまり入らない市道がルートに選定されており意外と安心して歩くことができました。また、岳見町の丘陵尾根を横断する道は急登で丸い柄の真空コンクリート舗装の急な坂道で、息を弾ませて上りました。この辺りでは大きな豪邸に目を奪われ、我が家と比べてあまりに差が在りすぎて唖然としました。

岳見丘陵はかつて狐狸が棲む里山でしたが、今では見違えるほど様変わりし、この付近は名古屋の富豪が集まっているようです。

半端でない急傾斜道の丘陵尾根を下り、最後の目的地弥富公園で小休止して解散になりました。

今回は瑞穂一万歩コースの萩山中学経由を止めて、そのまま瑞穂運動場東駅にエスケープして歩行距離がかなり短くなりました。

瑞穂運動場東駅経由瑞穂スタジアム方面と、弥富通り中根方面の二手に分かれての帰路になりました。HさんのTelによれば食事をされた方は新瑞橋の浜木綿に行かれたそうです。

小生は瑞穂ランド経由で本願寺町の我が家にゴール、歩数：13,100歩、歩行距離：9.1km、歩行時間：2時間50分でした。

ところで、東山公園や平和公園の一万歩コース設定は雑木林の緑の中ですが、瑞穂一万歩コースは風致地区の街歩きコースです。

小生としては自然林の中の地道なら脚にも優しく、気分が高揚して歩けるのだが、このコースは残念ながら魅力にやや欠けるが、山行のトレーニングには向いている事を実感しました。



神明造りの山神社本殿